



平成 26 年 7 月 7 日

広 報 室

子どもの空想の友だちの形成メカニズムの解明

1. 発表者：

森口佑介（上越教育大学大学院学校教育研究科 准教授，
独立行政法人科学技術振興機構 研究者）
本島優子（山形大学地域教育文化学部 講師）
篠原郁子（国立教育政策研究所 主任研究員）
登藤直弥（国立情報学研究所 研究員）

2. 発表概要：

科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業さきがけ研究の一環として、幼児期の子どもが持つ空想の友だち（*1）が、乳児期における親の言葉がけによって生成されることを明らかにしました。これは、これまでほとんど明らかにされてこなかった空想の友だちの生成メカニズムの一端を初めて示した成果です。

空想の友だちとは、幼児期特有にみられる現象で、目に見えない他者やぬいぐるみを友達とみなし、現実の友だちと同様にやりとりすることを指します。過去の研究より、幼児の約半数程度が空想の友だちを持ち、空想の友だちと遊ぶことで社会性や認知機能を育むことが示されています。しかしながら、なぜある子どもが空想の友だちを持ち、別の子どもは持たないかについては全く明らかにされてきませんでした。

本研究グループは、生後 6 か月の乳児およびその養育者に調査協力をしてもらい、親子の自由遊びの様子を観察し、親が子どもに対してどのような言葉がけをしているかを調べました。そして、その乳児が 3 歳半になったときに再び調査に協力してもらい、その子どもが空想の友だちを持つか否かを調べました。その結果、生後 6 か月時点において子どもの心に対して言及する頻度が高い親に育てられた子どもは、そうでない親子に比べて、空想の友だちを持つ可能性が高いことが示されました。

本研究成果は、社会性の発達に問題を抱える子どもへの応用が期待されます。

本研究成果は、2014 年 6 月 30 日（英国時間または米国東部時間）発行の英科学誌「European Journal of Developmental Psychology」に掲載されます。

3. 発表内容：

＜研究の背景と経緯＞

日常的に、子どもは目に見えない他者やぬいぐるみに名前をつけ、お世話をし、一緒に遊びます。このような空想の友だち遊びは、幼児期において顕著にみられ、児童期以降に徐々に減っていくことが知られています。以前は空想の友だち遊びは現実からの逃避するためのネガティブな行動だと考えられていましたが、近年の研究はこれらの遊びが子どもの社会性の発達や認知発達にポジティブな影響をもたらすことを示しています。たとえば、空想の友だちと遊ぶ際には、子どもはその友達の姿だけではなく「心」も想像しなければなりません、その結果として現実世界においても他者の心の推測が上手になるのです。しかしながら、子どもたちがいかにして空想の友だちを生成するのかは全く見当されていませんでした。我々は、子どもが空想の友だちと遊ぶ際に、必ずその友達の「心」に言及することに着目し、乳児期から幼児期にかけて親が子どもの心に対して働きかけることによって、子どもが空想の友だちを形成するのではないかという仮説を立てました。

＜研究の内容＞

本研究は3年間にわたる縦断研究として実施されました。まず、生後6か月の時点において親子約40組に調査に参加してもらい、その子どもが42か月になった時点で再び調査に協力してもらいました。

6か月時点においては、親子の自由遊び場면을15分間観察し、親が子どもに対してどのように関わっているのか、15分間でどの程度親が子どもの心に言及するかを計測しました。先行研究から、乳児を持つ親は、実際に乳児が何かを考えたり、感じたりしているかにかかわらず、子どもの心に言及することが知られています。このような親の子どもへの働きかけが、子どものこころの発達を育む可能性があるのです。これに加えて、親の養育態度（子どもの自主性を尊重するかなど）や子どもの気質も調べました。そして、その子どもが42か月になったときに、空想の友だちを持つか否かを調べました。

その結果、6か月時点において子どもの心に対する働きかけが多い親を持つ子どもは、そうではない子どもよりも、空想の友だちを持つ可能性が高いことが示されました。また、養育態度については、子どもの自主性を尊重する傾向が強い親の子どもは、そうではない子どもよりも、空想の友だちを持ちやすいことも示されました。

これらの結果は、親の子どもへの言葉がけや養育態度などが空想の友だちの生成に影響を及ぼすことを示しています。

<今後の展開>

今後は、親の養育態度などの社会的環境以外の要因がいかにより子どもの空想の友だちの生成に影響を及ぼすかを検討したいと考えています。また、空想の友だちの性質が文化によって異なる可能性が示されているため、そのような文化の違いに親の養育態度がいかにより影響を及ぼすかも検討したいと考えています。

さらに、社会性の発達に問題を抱える子どもにおいて、空想の友だちがいかなる役割を果たしうるかについても今後検討する予定です。

4. 発表雑誌：

European Journal of Developmental Psychology 電子版 6月30日5時(日本時間)
に出版, 報道解禁

“Parental behaviour and children's creation of imaginary companions: A longitudinal study”

(親の行動と子どもの空想の友だちの生成：縦断研究)

5. 注意事項：

特になし

6. 問い合わせ先：

山形大学地域教育文化学部・講師

本島優子 (もとしま ゆうこ)

Tel: 023-628-4363 (研究室)

E-mail: motoshima@e.yamagata-u.ac.jp

上越教育大学大学院学校教育研究科・准教授

森口佑介 (もりぐち ゆうすけ)

Tel: 025-521-3415 (研究室)

E-mail: moriguchi@juen.ac.jp

7. 用語解説：

*1 空想の友だち：子どもが作り出す、想像上の友達のこと。日常生活の中に現れ、子どもは IC と遊んだり、話したりする。米国では、20-40%の幼児が IC を持つ。わが国では調査が少ないが、半数程度の子どもが持つとされている。

8. 添付資料：

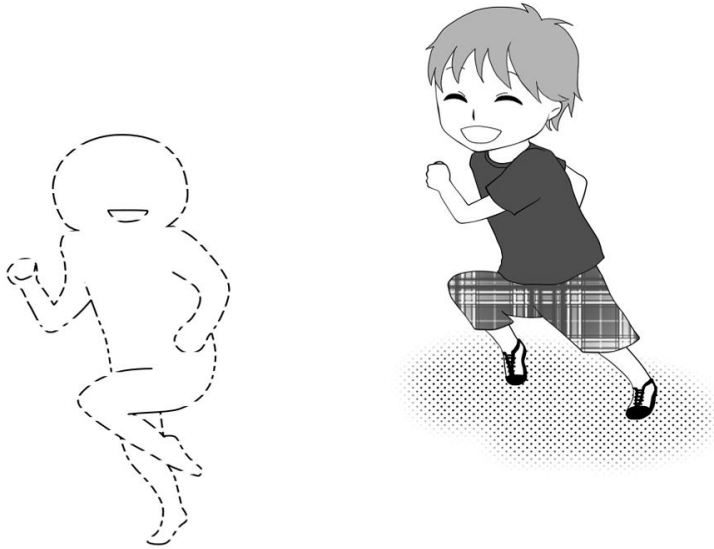


図1 空想の友だちと遊ぶ子ども



図2 子どもの心に働きかける親